

くらのうえ ろくじぞう
蔵上の六地藏

鳥栖市重要文化財（石造建造物）

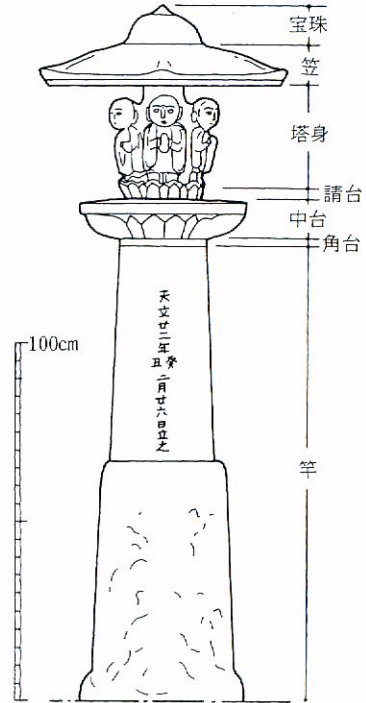
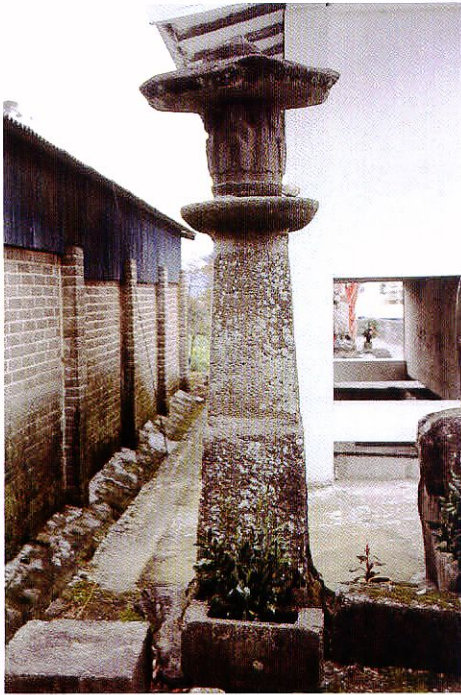
鳥栖市教育委員会



東向きに建てられているこの六地藏は、一基の石塔の6面に地藏像を彫り込んでいます。二本継ぎの竿石で、上の竿石の三面には銘文が陰刻されています。低い角台のついた皿形の中台には複弁の蓮弁があり、請座には剣形の蓮弁が彫られています。笠は扁平で径が大きく、六稜に棟を彫りだし僅かにムクリをつけ、頂上部には低平な宝珠が造りだされています。軒先は内傾し、軒付けが二重になっています。石材には砂岩を使い、高さは190cmを測ります。

市内には20基の六地藏があります。その中でも蔵上の六地藏は天文22年(1533)の紀年銘があり、年代の明らかなものでは最も古いものです。

所在地	鳥栖市蔵上町433-1番地
管理者	蔵上町
指定年月日	昭和53年4月14日



蔵上の六地藏とその部位名称 (図面は、松隈嵩「鳥栖・三養基の中世石塔」『栖』第22号より引用)

(北面)	(正面)	(南面)
為現世安陰 後生安処	施主願主□□尼敬白	天文廿二年癸丑二月廿四日立之

竿石に刻まれている銘

仏教では、すべての人々(衆生)は三悪道(地獄道・餓鬼道・畜生道)、三善道(修羅道・人間道・天道)の六つの迷界を輪廻転生(生と死を繰り返すこと)するとされています。六地藏とは、この六道において衆生の苦しみを救うとされる壇陀・宝珠・宝印・持地・除蓋障・日光という六種の地藏菩薩のことです。

これら6体の地藏像を彫り、民間信仰の対象にする風習は、平安時代の終わり頃から始まるようですが、室町時代になると道祖神(道路を行き交う人々を守る神)信仰とも結びつき、街道沿い集落の出入口などに多く建てられるようになりました。No. 6に紹介する原古賀町大楠の六地藏や轟木町、幸津町のものなどは集落の出入り口に建てられています。

墓地や路傍で見られる六地藏には、この蔵上の六地藏のように塔身に背中合わせに6体の地藏像を彫りだすものと、1尊ずつ6体並べるものがあります。上に挙げた原古賀町大楠の六地藏や轟木町の六地藏も前者の形態をとっており、後者のものには幸津町のものが挙げられます。